



中山認定こども園の園児との七夕飾り作りの様子です。今回は子供たちが度々足を運んでくれて、大きな竹竿がしなる位の飾りとお願い事の短冊が飾られました。中にはひ孫さんに久しぶりに会えたという方もいて、交流になったようです。

7月13日、4月に植えたスイカとかぼちゃが収穫できるまでに育ちました。長雨もあり、心配していましたが、スイカは甘くて美味しく育ち、かぼちゃはみんな天ぷらにさせていただきました。また、昨年の咲いたひまわりの種を5月に撒き、7月に入り、満開に咲きました。



7月2日、グループホームの芋さしの日。畑作業は慣れたもの。昔からされている方は、植え方を職員に教えてくれます。50本の苗を2セット。皆さんお疲れ様でした。



7月7日七夕。表紙は元亀の里の入所者の方々。織姫と彦星のペア写真です。さて誰がペアだったでしょう。また、各事業所では、熱心に飾り作りが行われていました。短冊には、健康や長寿を願うものや、家族のこと、そして、今年はコロナに関するものもあるようでした。それぞれの飾りにも意味があり、折り紙を財布や巾着の形に折った物は、金運の上昇を願うものらしいですよ。



せいひ会だより

2020年（令和2年）
8月1日発行
＜第244号＞
社会福祉法人せいひ会
<http://www.seihikai.jp/>



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係る面会制限の再開について

地域感染動向を踏まえ、段階的に面会制限を緩和しておりましたが、長崎県内での感染拡大の状況を鑑み、再度すべての面会を禁止とさせていただきます。また、各サービスのご利用に関しても留意事項がございますので、詳しくは各事業所までおたずねください。当法人をご利用のすべての方とそのご家族、そして地域の皆さまに、新型コロナウイルス感染がないよう、可能な限りの対策とその徹底を取り組んでおります。皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

7月の行事

7日	七夕	(各事業所)
8日	七夕	(GH)
8日	誕生会	(通介)
～7日まで	七夕飾り作成	(元亀)
17日	消防総合訓練	(通介/丘の家)

8月の行事予定

2日	夕涼み会	(GH)
8日	誕生会	(通介)
20日	料理教室	(元亀)
8月中日	作品展示会	(風和)
	精霊流し	(各事業所)



寿限無
岡ナミ様



寿限無
松崎エイ子様



寿限無
坂口喜美枝様



寿限無
久松チヨ様



寿限無
川上重郎様



風和の里
中尾富子様



風和の里
池口サカエ様



風和の里
反田セキ様



風和の里
朝長ツネ様



風和の里
内野マツエ様



元亀の里
平谷シゲ様



元亀の里
田添八太郎様



元亀の里
相川ナツ様



元亀の里
松尾佐代子様



通所リハビリ
濱口信夫様



風和の里
川上キサ様

インタビュー



通所介護
浦添ウメ様



通所介護
中村ヨシ子様



通所介護
楠本卯一様

お誕生日おめでとう

昭和4年7月19日生まれ。91歳になられます。「7人兄弟の末っ子で甘えん坊。とにかくお兄ちゃんに可愛がられていて、いじめられて帰るとお兄ちゃんがやり返しに行っていた。」と笑って話される。佐世保の保立小学校卒業後、長崎県立大村高等女学校へ進学。「私はね、学校の先生になるのが夢だったの。」と教員免許取得、小・中学校の教員として勤務されていました。「悪ガキもいて、返事しないで反抗的な態度を取る生徒もいたのよ。一番好きだった教科は音楽で、ピアノを引いたり歌ったりするのが楽しかった。」と懐かしそうに話される。「また、当時はお弁当を持ってこれない子供たちがいてね。私のお母さんがお弁当を多めに作ってくれて、食べられない子供に分けてあげなさい。って持たせてくれたのよ。」と胸の熱くなるようなエピソードを聞かせてくれました。風和の里での生活は「みんな良くしてくれて、毎日楽しいですよ。」と話してくださいました。

LIFE IS A WORK OF ART

今月の作品紹介です。



間敏夫様



通所介護共同作品



荒瀬美智子様



長島フミノ様



岡野リソ様



秋浦克敏様

職員紹介



木下恵子

2019年6月よりコミュニティセンター元亀に勤務しています。せいひ会で定年を迎え、再び地元の職場に勤務させていただいております。仕事の内容もいろいろと覚えることがあり、家族や周りの人・職場の人たちに支えられながら働いております。働く場所があり、動ける体に感謝しています。

随 ずっとらばし

せいひ会の職員が思うがままをリレー式に綴るコーナー。今月は風和の里 三岳由紀子さんです。

私は自宅でよく映画のDVDを観ます。特に気持ちが落ち込んでいるときなどは前向きな気持ちになれる映画を見たくになります。『グリーンブック(2018)』は実話を基に作られており、人種差別意識の強かった1960年代のアメリカを描いたロードムービーですが、重いテーマとは相反して価値観が真逆の主演二人が迎えるクリスマスがどんなものになるか結末が分かかっていても何度も観たくなってしまいます。『ショーシャンクの空に(1994)』ではとても好きな言葉がありま

す。「希望はいいものだ。多分最高のものだ。素晴らしいものは滅びない。」刑務所で過ごしている人は刑務所で過ごすことも、長い刑期を終えた後社会に出て適応していくことにも希望が持てないでいました。これはそんな人に宛てた手紙の一節です。この映画を見ると辛く苦しい時でも希望という物は存在すると思います。約2時間でとても満たされた気持ちになる映画というものも、素晴らしいものだからずっと残っていくものなのだと思います。